

G—6 小学校，中学校，高等学校，大学の被服教育について（第2報）
名古屋女大家政 ○後藤喜恵 酒井清子 加藤恵子
岐阜大教育 中野刀子

目的

小，中，高等学校の学習指導要領の改訂にともない，内容精選が論じられている現今，短大においても被服構成のあり方が問題になっている。そこですでに本年中部家政学会総会において，小，中，高等学校の被服領域の内容および教材の精選の適正化をはかるため第1報で報告したが，今回は本学の学生を対象に入学時に基礎技術を実習させその結果から，短大における被服実習のカリキュラムを考えるため研究を行なったので報告する。

方法

- 1) 本学新入学生 110 名を対象に第1回目入学時にフラスナー脇明き，裾始末などの実習およびアンケート調査を行なった。
- 2) 第2回目は第1回目と同一実習を行なった。

結果

- 1) 入学時における実習の出来ばえは，評価点80点以上のもの2.7%，80点以下60点までのもの52.7%，60点以下50点までのもの44.6%，50点以下のもの18.3%であった。
- 2) 第2回目の実習の結果，評価点80点以上のもの59.0%，70点以下60点までのもの41.0%であった。

今後このような実績をもとに基礎的な実験を加え，短大の被服構成の内容を精選すると同時に学生の能力指導の適正化をはかり，被服指導の一助としたい。